滋賀縣產のオオヒカゲについて

森 石 雄・村 山 修 一

On a new race of *Aranda schrenckii* from Siga Prefecture, Japan

By I. MORI & S. MURAYAMA

滋賀県にオオヒカゲの産することは，1909年，「昆虫世界」No. 147 に井崎市左衛門氏が「蝶類雜記」の一文を掲載した中に，7月4日，水口五本丸で友人の山村氏が 1♂ を採集した旨記されたのが古く，之はおそらく，本種の西日本分布を示す最古の記録であったかと思う。文献を教えられた林慶氏にお礼申上げる。その後，本種は県下で一向に採れた様子なく，恐らくこの記録は何かの誤りであろうと考えられるに至った。しかし1938年には Zephyrus 誌上（Vol. 7, No. 4, p. 272）に中国山脈からの採集記録があらわれたし，神戸北方でも採集されたことが報ぜられ（昆虫界 Vol. viii,p. 442–452, 1940）るに至って，必ずしも可能性がない訳でないと思い，村山は森にその探索を慫慂するところがあった。そのうち1952年，本弘道崇氏は三重県に本種の分布を記録され（佳香蝶 Vol. IV, No. 20, 1952）るに及んでいよいよ滋賀県分布の公算は大きくなった。折も折，同年8月23日，滋賀県蒲生郡市原村の中島喜想次氏は熱心なる探索によって，同地方から破損した1頭をえられ，之を森に速報された。森は直ちにこの標本を検してその分布の確実性を信ずるに至り，1954年7月上旬，八日市市南部一帯を調査の結果一挙に26頭（16♂♂10♀）という大量捕獲に成功したのである。ここにその成果を報告するとともに，他地方のものとの比較によってその特色を把握しえたので，改めて新亜種として以下に記載することとした。近畿地方のものが別の亜種を代表するであろうことは，之より先，白水隆氏が御示教になっていたもので，この機会に同氏に敬意を表したい。また本種発見の端緒を作られた中島氏の御活躍にも厚く感謝するところである。

Aranda schrenckii suzukaensis MORI et MURAYAMA (ssp. nov.) (Fig. 5 ♂. Fig. 6: ♀)
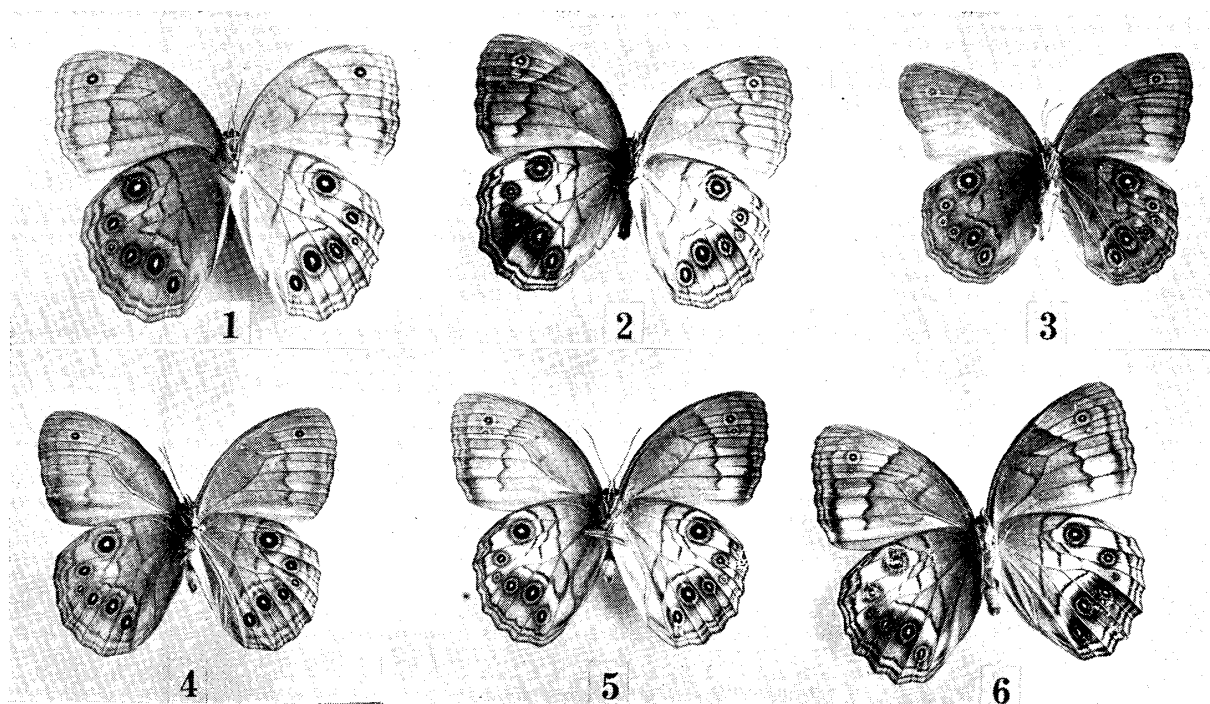
Fig. 1 *Aranda schrenckii menalcas* ♂ 北海道產
Fig. 2 *A. s.* ssp. ♀ 新潟縣產
Fig. 3 *A. s. schrenckii* ♂ アムール產
Fig. 4 *A. s. carexivora* ♂ 八ヶ岳產
Fig. 5 *A. s. suzukaensis* nov. ♂ (Paratype) 滋賀縣產
Fig. 6 *A. s. suzukaensis* nov. ♀ (Holotype) 滋賀縣產

♂♀共に翅表の色調，他地方のものに比して明るい，この点は裏面において一層著しく北海道産（ssp. *menalcas*）や信州高地帯産（ssp. *carexivora*）のものが灰色を帯び，暗い感じがするのに対して，遥かに黄白味が強く，明るい地色を呈する（但し新潟県低地部のものは一層黄味が強い）．こうした地色の比較では，信州高地帯のものが最も原種に近いようである。裏面後翅中央部は北海道産と同様，顕著に白色を呈する。また亜外縁の二褐色線に縁どられた薄い紫色の帯は比較的明瞭である。翅長は平均して北海道のものが心持大きいように思われるがまず大差ない。信州高地産のものは之より少しく小，新潟県低地部のはやゝ大きいようである。（掲げた写真は技術拙劣のため，以上の特色がよく出ていない。ただアムール及び信州高地産のものの裏面地色が暗色であることは之からも分ると思う。新潟県産のは展翅がまずくて小さくみえるが，実はこの6頭中最大の大きさのものである）

前翅長 ♂ 35-39mm. ♀ 39-41mm.

Holotype 1♂ (Fig. 6), Allotopotype 1♀, Paratopotypes 9♂♂ 6♀♀ (1♂ Fig. 5). すべて滋賀県八日市市及びその近傍産，1954年7月6日より15日までの間に採集された。Holotype 1♂, Paratopotypes 1♂ 1♀ は村山が，Allotopotype 1♀ は森が，Paratopotypes 8♂♂ 5♀♀ は森及び布藤が分ち所有する。なお産地における本亜種の生活史については，今後さらに森が研究をすすめるつもりである。

註—さきに村山が信州八ケ岳産及び新潟県低地産をタイプとして新亜種 *carexivora* を記載したところ（蝶と蛾, Vol. IV, Pars. 2/3, 1953）白水氏より，以上の両地のものは同一の地方型として認め難く，夫々異なっていることを指摘されたので，ここには取敢えず *carexivora* を信州高地帯のものに保留して使用する。御教示下さった白水氏に感謝する。

Résumé

Aranda schrenckii suzukaensis MORI et MURAYAMA **ssp. nov.** (Fig. 5♂, Fig. 6♀)

♂♀, Upperside, as well as underside, ground colour whitish yellw, lighter than other races, such as ssp. *schrenckii*, *menalcas*, *carexivora* etc. Central area of hindwing, underside, distinctly white as ssp. *menalcas*. Submarginal band bordered by two brown lines has remarkably light purplish colour. Size more larger than orignal race, and ssp. *carexivora*, but similar to ssp. *menalcas*. Holotype 1♂ Allotopotype 1♀ Paratopotypes 9♂♂ 6♀♀ Yō-ka-iti, Siga Pref., Honshu. Types are preserved in our collections.

N. B. 1 Mr. SHIRŌZU has kindly advised MURAYAMA that ssp. *carexivora* MURAYAMA 1953, includes two races from different regions, viz., mountainous region in Nagano Pref., and plain region in Niigata Pref. So, in the meantime, we use ssp. *carexevora* as the mountainous race in Nagano Pref., as well as its adjacent areas.

N. B. 2 We express sincere thanks to Mr. F. DANIEL, who has kindly sent us the important material from Amur region.

10月21日の評議員会で次の事項を決定。

（1）1955年度より会費を年額 300円に変更。

（2）鱗翅目文献目録の編纂委員は磐瀬太郎氏が辞任，代って白水隆，井上寛両氏が担当。

（3）次期総会（1955年）は京都で開催，日時は未定。

（4）岡田慶夫氏幹事を辞任。